

2. 研究方法

(分析対象とする向上訓練コース)

「旋盤加工技能クリニック」を授業分析の対象とする。この向上訓練コースは従業員類型別教育訓練コース開発研究として、山梨技能開発センターと職業訓練研究センターとで共同開発されたものである。

このコースの目的は、機械加工に長年の経験をもつ、いわゆるベテランを対象として、自己の技能をとらえなおす機会を提供しようとするところにある。⁷⁾

このコースの訓練時間は35時間であり、「オリエンテーション」、「技能診断課題の討議」、「自主研修」、「自主研修の発表」、「総括討議」の順に進められる。⁸⁾

このコースの第1回目は1987年11月に、山梨技能開発センターで実施された。これが本報の分析対象コースである。

(分析する授業の位置づけ)

「旋盤加工クリニック」コースの一部分を授業分析する。

全日程の第3日目に行われた、「診断課題の討議」の授業である。

つまり、第1日目に、図1のごとき課題が示され、受講者はそれぞれ、加工工程表を作成する。⁹⁾そして、第2日目には旋盤を用いてこの課題を実際に加工する。これに続く、第3日目で「診断課題の討議」が行われる。この授業では加工工程表をもとに受講者と指導員が一緒になって、工夫した点、困難を感じた点などについて討議を行う。この結果から次のプロセスである「自主研修」への橋渡しを行う。それと同時にコミュニケーション能力を高めることをねらっている。

図1 旋盤加工技能クリニック 診断課題

下記材料を使って部品を作成し、組立図に示すようなはめ合わせを下さい。

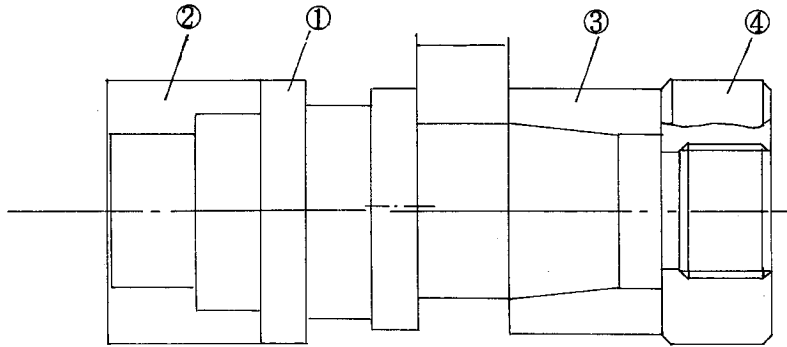
使用材料：S45C $\phi 65 \times 270$

使用バイト：高速度工具鋼付刃バイト各種

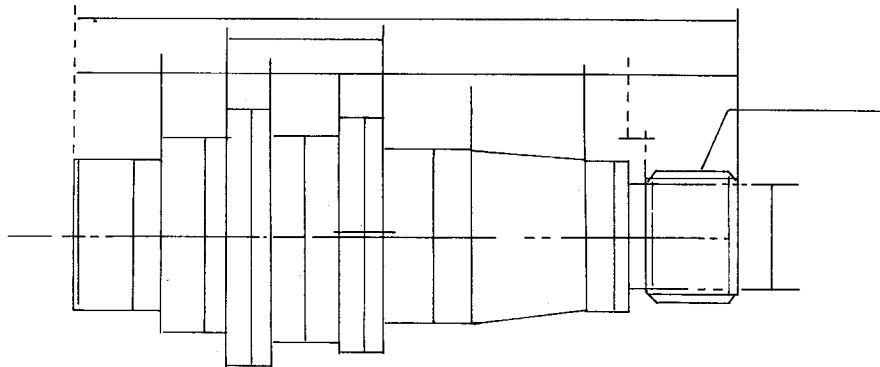
超硬バイト各種

スローアウェイバイト各種

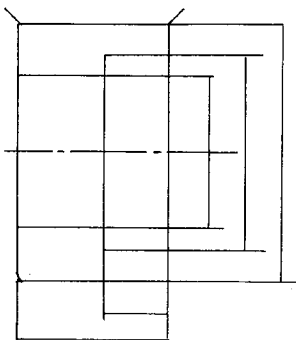
作業時間：概ね6時間



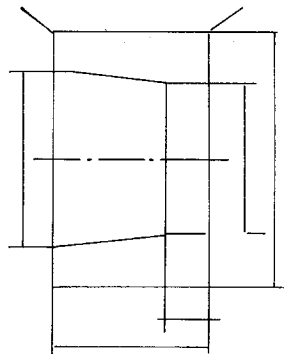
① $\nabla\nabla\nabla(\nabla\nabla\nabla)$



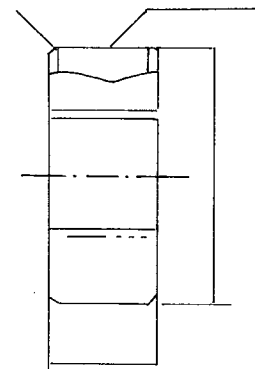
② $\nabla\nabla\nabla(\nabla\nabla)$



③ $\nabla\nabla\nabla$



④ $\nabla\nabla\nabla(\nabla\nabla)$



(この「課題の討議」の授業の流れ)

第3日目の「診断課題」はおおまかにみると次のような流れである。

- A. 本講の目的説明と加工工程全般についての討議
- B. 各要素ごとの加工上の工夫等についての討議
 - 1. ネジの部分
 - 2. メネジの部分
 - 3. ローレット加工の部分
 - 4. テーパー加工の部分
- C. 指導陣からの標準的加工工程の説明
- D. 本講の総括

この3日目の授業は1987年11月10日、午後6時8分から9時20分まで実施された。この時間帯のうち、7時16分から7時25分まで休憩をとっている。

(受講者と指導員の構成)

受講者は機械加工の経験者、6名である。Ha氏、Hi氏、Fu氏、Fs氏、Ko氏という名称で文中に登場する。

一方、指導陣は山梨技能開発センター機械科の専任指導員、3名である。

Iw氏(渡井道輔氏)、Io氏(大崎晃氏)、Ia氏(相川文英氏)による、いわゆるチームティ칭ングである。

(この授業の進め方)

この部分の授業の進め方については、指導陣による厳密な事前検討は行なっていない。しかし、研究者側から“指導陣から一方的な説明にならないように工夫してほしい”主旨を申し入れてある。¹⁰⁾ その結果、実際の授業展開では、“一方的な教えこみではない”授業が行われた。¹¹⁾

授業が行われた場所は教室である。机の配置は図2のごとくである。

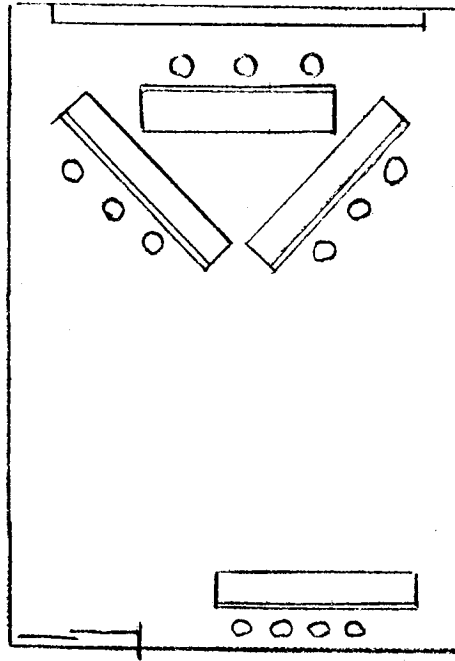


図2 教室での机の配置

(授業分析の方法)

研究者はこの授業を観察し、テープレコーダーに授業展開の様子を記録し、それをすべて文章化した。言語表現を文章化するにあたってはなるべく忠実におこなったが、方言など修正した部分もある。

この授業記録は全文を補足資料に入れた。